

デーヴォ ガイド



2023.3.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

6日 月曜

サムエル I



19:18 ダビデは逃げて、難を逃れ、ラマのサムエルのところに来た。そしてサウルが自分にしたこと一切をサムエルに告げた。彼とサムエルは、ナヨテに行って住んだ。

19:19 するとサウルに「ダビデは、なんとラマのナヨテにいます」という知らせがあった。

19:20 サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。彼らは、預言者の一団が預言し、サムエルがその監督をする者として立っているのを見た。神の霊がサウルの使者たちに臨み、彼らもまた、預言した。

19:21 このことをサウルに告げる者がいたので、彼はほかの使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。サウルはさらに三度目の使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。

19:22 サウル自身もラマに来た。彼はセクにある大きな井戸まで来て、「サムエルとダビデはどこにいるか」と尋ねた。すると、「今、ラマのナヨテにいます」という答えが返ってきた。

19:23 サウルはそこへ、ラマのナヨテへ出て行った。彼にも神の霊が臨んだので、彼は預言しながら歩いて、ラマのナヨテまで来た。

19:24 彼もまた衣類を脱ぎ、サムエルの前で預言し、一昼夜、裸のまま倒れていた。このために、「サウルも預言者の一人なのか」と言われるようになった。

サウルが預言するのは非常に違和感があるかもしれませんが、サウルは神の器ではないはずであり、神の霊がみこころに適わないような人に臨むはずはないと思うでしょう。
ただし気をつけなければならないのは、完全にみ

こころに適う人はいないという事です。また人が預言するのは、あくまでも主の聖霊によるのであって、その人の人徳や業績によるのではないということも重要です。

それを覚えていないと、自分が預言などで神に用いられるときに、勘違いしてしまいます。すなわち、自分は優れているから用いられるのだと思ってしまうのです。さらには自分ほどには用いられていない人を、まだまだの信仰・能力と思ひ込んでしまいます。

サウルの一件は、不思議なことではありますが、以上のような、神の絶対主権に私たちを回帰させてくれるものです。用いられるかどうかで人と自分を判断するのではなく、あくまでも主の前にひれ伏すものでありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

サムエル I



20:1 ダビデはラマのナオテから逃げて、ヨナタンのもとに来て言った。「私がああなたの父上の前に何をし、私にどんな咎があり、どんな罪があるというのですか。父上が私のいのちを求めておられるとは。」

20:2 ヨナタンは彼に言った。「とんでもないことです。あなたが死ぬはずはありません。父は、事の大小を問わず、私の耳に入れずに何かをするようなことはありません。どうして父が、このことを私に隠さなければならないのでしょうか。そんなことはありません。」

20:3 ダビデはなおも誓って言った。「父上は、私があなたのご好意を受けていることを、よくご存じです。『ヨナタンが悲しまないように、このことを知らせないでおこう』と思っておられるのです。けれども、【主】は生きておられます。あなたのためにも生きておられます。私と死の間には、ほんの一步の隔たりしかありません。」

20:4 ヨナタンはダビデに言った。「あなたの言われることは、何でもあなたのためにします。」

20:5 ダビデはヨナタンに言った。「明日はちょうど新月祭で、私は王と一緒に食事の席に着かなければなりません。でも、私を行かせて、三日目の夕方まで、野に隠れさせてください。」

20:6 もし、父上が私のことをとがめたら、おっしゃってください。『ダビデは自分の町ベツレヘムへ急いで行きたいと、しきりに頼みました。あそこで彼の氏族全体のために、年ごとのいけにえを献げることになっているからです』と。

20:7 もし父上が『よし』とおっしゃれば、あなたのしもべは安全です。もし激しくお怒りになれば、私に害を加える決心をしておられると思ってください。

20:8 どうか、このしもべに真実を尽くしてください。【主】に誓って、しもべと契約を結んでくださったのですから。もし私に咎があれば、あなたが私を殺してください。どうして父上のところにまで、私を連れ出す必要があるでしょうか。」

20:9 ヨナタンは言った。「とんでもないことです。父がああなたに害を加える決心をしていることが確かに分かったら、あなたに知らせないでおくはずはありません。」

20:10 ダビデはヨナタンに言った。「もし父上が厳しい返事をなさったら、だれが私に知らせてくださいますか。」

20:11 ヨナタンはダビデに言った。「野に出しましょう。」それで、二人は野に出た。

サウルは王位に固執しましたが、それはヨナタンにとっても立場的には同じで、このままダビデに指導者としての人気が増せば、ヨナタンも将来の王ではなくなるのです。しかしヨナタンはそれには固執しませんでした。

彼は神のみこころ、そのみこころに進むときのイスラエルの幸せ、その神が引き合わせてくださった生涯の信仰の友を、王位よりも愛したからです。

私たちにとってのそのような価値は、まさにイエス様ご自身です。イエス様の愛を本当に知ると、それまで固執していたものから開放され、本当の価値がわかるようになります。今一度、イエス様の愛を心にしっかりと覚えながら、周りのものを見つめ直してみましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 水曜

サムエル I



20:12 ヨナタンはダビデに言った。「イスラエルの神、【主】にかけて誓います。明日かあさっての今ごろまでに、父がダビデに対して寛大であるかを探ってみます。寛大でなければ、必ず人を遣わして、あなたの耳に入れます。

20:13 もし父が、あなたに害を加えようと思っているのに、それをあなたの耳に入れず、あなたを無事に逃がさなかったなら、【主】がこのヨナタンを幾重にも罰せられますように。【主】が父とともにおられたように、あなたとともにおられますように。

20:14 もし私がこれ以上生きるべきではないのなら、あなたは、【主】の恵みを私に施して、私が死ぬことのないようにする必要はありません。

20:15 しかし、あなたの恵みを私の家からとこしえに断たないでください。【主】がダビデの敵を地の面から一人残らず断たれるときにも。」

20:16 ヨナタンはダビデの家と契約を結んだ。「【主】がダビデの敵に血の責めを問われますように。」

20:17 ヨナタンは、ダビデに対する愛のゆえに、もう一度ダビデに誓わせた。ヨナタンは、自分を愛するほどにダビデを愛していたからである。

20:18 ヨナタンはダビデに言った。「明日は新月祭です。あなたの席が空くので、あなたがいないことが分かりますでしょう。

20:19 三日目に、日が暮れてから、あの事件の日に隠れた場所に行って、エゼルの石のそばにいてください。

20:20 私は的を射るように、三本の矢をそのあたりに放ちます。

20:21 私が子どもを遣わして、『行って、矢を見つけて来い』と言ひ、もし子どもに『それ、矢はおまえのこちら側にある。それを取って来い』と言ったら、出て来てください。【主】は生きておられます。あなたは安全で、何事ありませんから。

20:22 しかし、私が少年に『それ、矢はおまえの向こう側だ』と言ったら、行ってください。【主】があなたを去らせるのです。

20:23 私とあなたが交わしたことばについては、【主】が私とあなたの間を永遠の証人です。」

人間の願いによって人間的な基準で立てられた王であるサウルと、神が選び立てられたダビデとの違いがサムエル記の重要テーマです。よく知られているようにダビデはキリストの型であって、そのようなキリストが待望され、またそのようなキリストであることにより、イエス様がキリスト（預言された救い主）であることが検証されるのです。

ダビデとサウルとの違いは、ここではヨナタンとの友情において明らかにされています。二人の友情は王位を争っているなら有り得ないことですから、ダビデは王位への野心がないこと、むしろヨナタンが王子であることを認めて尊重していることがわかります。

今は二人は王子と平民という上下関係にあるのですが、ヨナタンは「あなたの恵みをとこしえに私の家から断たないでください。」とダビデの主にある力を認めています。二人が神様だけを見上げていたことが分ります。

ダビデは身に起こる危険に切迫感を持ちながらも、王を憎むこともその子に怒るでもなく、諦めず最善な策を探ります。翻弄されながらも、

主に任せている信仰です。

人はそれぞれの歩み方がありますが、ダビデのように、不安の中にも主を信じて、あくまでも信仰によって前を見ましよう。また信仰の友と主の計画を願う心を分かち合いましよう。

またヨナタンのように主のために生きる人を、主の尊い計画のゆえに励まして支えましよう。自分を守ることを時には度外視する必要もあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 木曜

サムエル I

20:24 ダビデは野に隠れた。新月祭になって、王は食事の席に着いた。

20:25 王は、いつものように自分の席、つまり壁寄りの席に着いた。ヨナタンはその向かい側、アブネルはサウルの横の席に着いたが、ダビデの席は空いていた。

20:26 しかし、その日、サウルは何も言わなかった。「思わぬことが起こって身を汚したのだろう。きっと汚れているためだろう」と思ったからであった。

20:27 しかし、その翌日、新月祭の二日目にも、ダビデの席は空いていた。サウルは息子のヨナタンに言った。「どうしてエッサイの子は、昨日も今日も食事に来なかったのか。」

20:28 ヨナタンはサウルに答えた。「ベツレヘムへ行かせてくれと、ダビデが私にしきりに頼みました。」

20:29 『どうか、私を行かせてください。氏族の祝宴がその町であります。長兄が命じているのです。今、あなたのご好意を得ているなら、どうか私を行かせて、兄弟たちに会わせてください』と言ったのです。それで彼は王の食卓に来ていないのです。」

20:30 サウルはヨナタンに怒りを燃やして言った。「この邪悪な気まぐれ女の息子め。おまえがエッサイの子に肩入れし、自分を辱め、母親の裸の恥をさらしているのを、この私が知らないとも思っているのか。」

20:31 エッサイの子がこの地上に生きていかざり、おまえも、おまえの王位も確立されないのだ。今、人を遣わして、あれを私のところに連れて来い。あれは死に値する。」



20:32 ヨナタンは父サウルに答えて言った。「なぜ、彼は殺されなければならないのですか。何をしたというのですか。」

20:33 すると、サウルは槍をヨナタンに投げつけて撃ち殺そうとした。それでヨナタンは、父がダビデを殺そうと決心しているのを知った。

20:34 ヨナタンは怒りに燃えて食卓から立ち上がり、新月祭の二日目には食事をとらなかった。父がダビデを侮辱したので、ダビデのために悲しんだからである。

人の願いと基準によって王になったサウルと、神様に選ばれたダビデの違いがここでも明かになります。サウルに関してはまさに反面教師ですが、誰もが人である限りは同じような面を持ち合わせていると気づく必要があります。

サウルは自分の王位を息子であるヨナタンに継がせたいと願っていました。それにはダビデがいたらヨナタンの「王位も危うくなるのだ。」ということです。自分では息子のためと思い、そのように言っているのですが、まったく身勝手な思いであることは、その息子までも怒りで殺しそうになったことで分ります。

子どもは次世代のためといいながら、実は身勝手な考えであるという可能性もありますから、気をつけなければなりません。

またサウルは主の前にも身勝手です。王位は自分のものではなく、主のものなのにそれが分っていません。それを守ろうとダビデを排除するたびに罪を犯し、結局王にふさわしくない自分であることを露呈しています。

王ほどではないとしても、主に用いられている人は、また主から善きものを与えられている人は、それが主からのものであることを肝に銘じ、主に感謝して謙遜に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 金曜

サムエル I



20:35 朝になると、ヨナタンは小さい子どもを連れて、ダビデと打ち合わせた時刻に野に出て行った。

20:36 そして子どもに言った。「走って行って、私が射る矢を見つけておいで。」子どもが走って行くと、ヨナタンは、その子の向こうに矢を放った。

20:37 子どもがヨナタンの放った矢のところまで行くと、ヨナタンは子どものうしろから叫んだ。「矢は、おまえより、もっと向こうではないか。」

20:38 ヨナタンは子どものうしろから、また叫んだ。「早く。急げ。立ち止まってはいけない。」その子どもは矢を捨て、主人ヨナタンのところに来た。

20:39 子どもは何も知らず、ヨナタンとダビデだけに、その意味が分かっていた。

20:40 ヨナタンは自分の弓矢を子どもに渡し、「さあ、これを町に持って行っておくれ」と言った。

20:41 子どもが行くと、ダビデは南側から出て来て地にひれ伏し、三度礼をした。二人は口づけし、抱き合って泣いた。ダビデはいっそう激しく泣いた。

20:42 ヨナタンはダビデに言った。「安心して行ってください。私たち二人は、『【主】が、私とあなた、また、私の子孫とあなたの子孫との間の永遠の証人です』と言って、『【主】の御名によって誓ったのです。』そして、ダビデは立ち去った。ヨナタンは町へ帰って行った。

矢によってダビデの危機を教える方法は、ダビデを守るためにヨナタンが考えた方法でしたが、周囲

に誰もいないと知るとダビデは姿を現し、ヨナタンに別れを告げました。ヨナタンはダビデのためにあらゆる手立てを講じる考えでした。それが兄弟愛です。

二人は「抱き合って泣いた」とあります。それは主から与えられた友情による思いです。男でも感情を表すことが大切なときがあるのです。そのときの思いは、後々までも二人の兄弟愛を育みます。ダビデはヨナタン亡き後、体の不自由になったヨナタンの子メフィボシエテを王のように待遇しました。またメフィボシエテは父ヨナタンから受け継いだダビデへの思いによってダビデをあくまでも信頼し力になったことが、後に記されています。

互いの愛を表すことは主のすばらしいみわざのために、大きな力となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 土曜

サムエル I

21:1 ダビデはノブの祭司アヒメレクのところに来た。アヒメレクは震えながら、ダビデを迎えて言った。「なぜ、お一人で、だれもお供がないのですか。」

21:2 ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王は、あることを命じて、『おまえを遣わし、おまえに命じたことについては、何にも人に知らせてはならない』と私に言われました。若い者たちとは、しかじかの場所で落ち合うことにしています。」

21:3 今、お手もとに何かあったら、パン五つでも、ある物を下さい。」

21:4 祭司はダビデに答えて言った。「手もとには、普通のパンはありません。ですが、もし若い者たちが女たちから身を遠ざけているなら、聖別されたパンはあります。」

21:5 ダビデは祭司に答えて言った。「実際、私が以前戦いに出て行ったときと同じように、女たちは私たちから遠ざけられています。若い者たちのからだは聖別されています。普通の旅でもそうですから、まして今日、彼らのからだは聖別されています。」

21:6 祭司は彼に、聖別されたパンを与えた。そこには、温かいパンと置き換えるために、その日【主】の前から取り下げられた、臨在のパンしかなかったからである。

21:7 ——その日、そこにはサウルのしもべの一人が【主】の前に引き止められていた。その名はドエグといい、エドム人で、サウルの牧者たちの長であった——

21:8 ダビデはアヒメレクに言った。「ここには、あなたの手もとに、槍か剣はありませんか。私は自分の剣も武器も持って来なかった

のです。王の命令があまりに急だったの
で。」

21:9 祭司は言った。「ご覧ください。あなたがエラの谷で討ち取ったペリシテ人ゴリヤテの剣が、エポデのうしろに布に包んであります。よろしければ、持って行ってください。ここには、それしかありませんから。」ダビデは言った。「それにまさるものはありません。私に下さい。」

ダビデの行動に関しては、註解者にも賛否があります。祭司のもとに行ったのは、主のもとに行ったことであり、それは信仰の表れであるとほめる解釈のありますが、実際にはただ助けを求めて行ったようにも見えます。

ゴリヤテの剣を手にしたのは、ダビデの信仰による結果だと解釈もありますが、それは祭司に嘘を言った結果であり、信仰者の姿勢としては間違いであったとする見方もあります。

現実的にはその両面があるということでしょう。そしてそれがダビデのように苦難にある人の、事情との中で何とかしなければならぬ心の辛さではないでしょうか。

ダビデ自身も、こういうときこそ信仰で…と思ったでしょうが、それでは死ななければならないという現実がありました。やむを得ず現実的な方法を取らなければならなかったことが、実際に私たちにもあり得るでしょう。

しかしそのようなときでも、主はパンを用意し（それも主に献げられた祭壇の）てくださり、また剣を用意してくださったのです。

自分が力においても、また信仰においても弱い者であることを自覚して、主の前に謙遜になりましょう。それゆえに、こんな弱い自分を助けてくださる主をあがめて、信頼しましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 日曜

サムエル I



21:10 ダビデはその日、ただちにサウルから逃れ、ガテの王アキシュのところに来た。
21:11 アキシュの家来たちはアキシュに言った。「この人は、かの地の王ダビデではありませんか。皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と言って歌っていたのは、この人のことではありませんか。」

21:12 ダビデは、このことばを気にして、ガテの王アキシュを非常に恐れた。

21:13 ダビデは彼らの前でおかしくなったかのようにふるまい、捕らえられて気が変になったふりをした。彼は門の扉に傷をつけたり、ひげによだれを垂らしたりした。

21:14 アキシュは家来たちに言った。「おい、おまえたちも見ているように、この男は気がふれている。なぜ、私のところに連れて来たのか。」

21:15 私のところに気がふれた者が不足しているとでもいうのか。私の前で気がふれているのを見せるために、この男を連れて来るとは。この男を私の家に入れようとでもいうのか。」

この「おかしくなったようなふるまい」というのも解釈が二通りで、機知が与えられて主に守られた信仰…という見方と、信仰が足りないゆえに人を恐れたみじめな姿…という見方とがあります。そして現実はその両方であると言えるでしょう。

人の行いは白か黒かで判断できないものです。トラブルや災害など極限に近い状態では、様々な考えや判断や価値観や優先順位が入り混じるものです。そして結局、ダビデの場合もそうですが、最後には主の愛と憐れみ、そして選びの確かさが残るのです。苦難の中で人が取った行動を批判することはでき

ませんし、また自分の取った行動が批判されても、それを理由に自分を責める必要はありません。主がそれをどうごらんになっているかが重要なのです。

ダビデに関しても賛否があったでしょうが、彼の心には自責の念で萎縮する思いよりも、主への信頼が強くなったはずです。それで後にサウルの命を助け、王となるための信頼を確立することができたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

